

アルン・ピンタ(タイ)

今年1月より半年間、ADRCの客員研究員として在籍しておりますアルン・ピンタと申します。私は、タイの国の防災機関である防災局(DDPM)の所属しており、今回そこから派遣されました。防災局での私の主な職務は、ASEAN防災委員会の下での地域プログラムや活動の策定や調整などを行うことでした。また私自身、同局に設置されているコミュニティレベルの防災チームのメンバーでもあり、そこでは指導官として、災害の起こりやすい地域にあるコミュニティの意識啓発を促し、災害対応能力を向上させる役割を担っていました。



私とADRCとの関わりは今回が初めてではなく、2004年12月26日のインド洋津波直後の被害地調査や2006年初めに行われた「学校防災教育」プロジェクトへの参加など、過去にもいろいろな場面でADRCのスタッフと交流がありました。

さて、タイの防災情報について紹介します。東南アジアに位置し主要なASEANメンバー国であるタイは、熱帯性気候に属しており、モンスーンの影響を受けます。5月中旬から9月にかけては、温暖で雨を伴ったモンスーンが南西方面からやって来ます。その一方で11月から3月中旬までは、北東方面から乾燥して涼しいモンスーンがやって来ます。タイでは、他の災害多発国と同様、自然災害と人的な要因による災害の両方に繰り返し見舞われています。近年起こった最も大きな災害はインド洋津波で、南部の州に住む8千人以上の命が奪われました。この津波災害は一度で史上最大数の命を奪った災害となりましたが、タイでは洪水と干ばつが頻繁に発生する災害となっており、こうした水害は常に国の経済・社会的発展に深刻な影響を与えています。

タイにおける防災政策は、防衛省の下に航空防衛を扱う部局が設立された1934年から始まりましたが、現在の方針は1979年3月22日に制定された国民防衛法令を基本にしています。この法令により国家市民防衛委員会(NCDC)が制定され、国全体の防災を進める上で重要な役割を果たしています。この法令によると、私が所属しているDDPMはNCDCの事務局として、実務をつかさどっているほか、防災関連の国家機関、民間セクター、専門家、ボランティアを統合する機関ともなっています。

タイの防災体制は一見、長い歴史があるように思えますが、実は、DDPMが設立され、防災を国策の最優先事項の一つとみなし始めたのはようやく2002年10月になってからのことです。2004年のインド洋津波は、災害の影響を軽減するため、元来の防災システムを迅速に見直し改善するための大きな契機となりました。このようにして、タイは以前よりも災害に強い国になろうとしています。

ADRC滞在の6ヶ月間、私は、(1)タイの過去の災害、(2)タイと日本における州・県レベルでの地震防災に関する比較調査、について集中的に研究しようと思っています。さらに、他のADRCのメンバー国における防災についても学びたいと思います。ADRC客員研究員としての研究・調査ならびに日本など他の国の防災優良事例を通じて、帰国後は、タイの防災能力向上に貢献したいと考えています。